

◆硫酸コリスチン【薬剤耐性菌に関するWG】 2021.2.2

硫酸コリスチンは、大腸菌やサルモネラなどに効く抗菌性物質で、1950年代から動物用医薬品や飼料添加物として使用されてきました。2017年、食品安全委員会は硫酸コリスチンが家畜に使用された結果、選択される薬剤耐性菌について、リスクの程度は評価区分4段階のうち上から2番目の中等度であると評価しました。この評価結果を受けて、農林水産省は2018年にコリスチンの飼料添加物としての指定を取消すとともに、動物用医薬品としてのコリスチン製剤の使用を第一次選択薬が無効の場合に限定しました。

その後、食品安全委員会は新たな情報を加えて、再度、評価を行い、2021年、硫酸コリスチンの家畜に使用した場合のリスクの程度は一段階下げて低度であるとの評価結果をまとめました。

詳細はこちら ▶



新たな評価方法等の活用に向けて

科学は進歩します。そのため、食品安全委員会が行っているリスク評価にも、科学の進歩に伴い、常に、新しい評価方法を取り入れていくことが必要です。

例えば、代謝物や不純物のように、ごく微量なため動物試験が難しい化学物質については、物質の構造に着目し、コンピューターを活用して毒性を類推する *in silico* 評価方法が開発されています。

食品安全委員会では、過去の膨大な試験データ等をもとに物質の構造からその毒性を予測する (Q)SAR や、数理モデルを用いて物質の毒性を解析するベンチマークドーズ法等の評価への活用を進めています。

研究・調査

リスク評価を行うために必要なデータや情報を得るため、公募型委託研究と請負調査を実施しています。

研究等を実施するにあたっては、今後5年間に推進すべき研究・調査の方向性を明示した「食品の安全性の確保のための研究・調査の推進の方向性について」(ロードマップ)を策定し、研究・調査の計画的・戦略的実施をはかっています。加えて、毎年度、優先して実施すべき課題を決定しています。

◎食品健康影響評価技術研究

リスク評価やそのガイドライン策定などに必要な知見を得るために実施する研究です。

◎食品安全確保総合調査

リスク評価等を行うために必要な情報とデータの収集・整理・解析などを行います。